



(財) 第五福竜丸平和協会
〒136 東京都江東区夢の島3-2
都立・第五福竜丸展示館内
電話 (521) 8494

歴史的事実を解釈するに当たって、もっぱら現在の時点に立ったままふり返ってみるだけでは、時としてとんでもない思い違いをしてしまうおそれが多分に生じてくることはだれでもよく知っている。たとえば、本誌上でもこれまでいくたびか話題にされてきた映画『第五福竜丸』が封切られた当時に数多く発表された映画評の中のひとつにつき、つぎのように書かれている個所があったのを覚えているが、これなどはその好適例であるといつてよいであろう。

「……この映画で一番の疑問になるのは、一同がはっきりと原子雲をみたことになっていることだ。そうすると、一同は吹雪のように降り注ぐ灰に当然不安を感じずべきであり、やがて顔が焦げひぶくれができ、次々と体に異常が現われてくれば、日本人ならばここで放射能被害と感づかぬはずはない。福竜丸の人々がそれほど無知だったという描き方は事実上反し。原子雲をみせたことが、あとあとまではなしをおかしくしているのである。惜しい

『死の灰』の原点

秋元 寿恵夫

……

わたくしはこれを読んだとき、正直いってあいた口がふさがらぬほどおどろいた。たしかに、時点をその当時に置く限り、日本人でありながら原子雲のあの無気味なきのこ型を目撃し、あまつさえその灰を浴びるに及んでもなおかつ放射能被害に対して何らの不安も感じないというのでは、あまりにも空々しいつくり話であるということにもなるであろう。

だが、第五福竜丸が被災したのは一九五四年三月一日だったのであって、映画『第五福竜丸』が上映されるようになった一九五九年から数えれば五年もむかしの出来事であったのである。そしてその間に流れ去った五ヶ年という年月の積み重ねの中には、すでにその当時となつてみればだれしもあの乗組員たちのとつた言動がいかにもうそごとしか思われぬまでに、一般国民全体へ向けて、絶えず放射能被害の怖ろしさに対する宣伝啓蒙を続けてきた一連のたゆみない原水禁止運動の歴

史が蓄積されていたのだという事実をゆめ忘れてはならないのである。

それにしても、この五年間は悠久幾百、幾千億年と続いている時の流れに較べればほんの瞬間でしかない。ところが、これを逆さまにさか上り、出来事があった過去にわが身を引き戻した上で、改めてその時点における状況設定を行うことの難しさは、正にかくの通りであつてみれば、時の隔りが一世紀、二世紀と漸次遠くなつていくにつれていったいどういふことになるのか、歴史に関心を抱く者は、よくよくこのところに思いを至さねばなるまい。

とくに、現在でも演劇、映画などを通じて少しも衰えをみせていないマゲもの演出に当って、登場人物のセリフのやりとりや立居振舞などに、現代における感情や心理のうごきを平気でそのままひきうつしにしてはばからないやり方がまかり通っているが、いま例に挙げた映画評は、考えようによつてはかえつてそうすべきだと勤めているとも受けとられよう。だが、こういうやり方では歴史的事実をありのままに捉えるようすがには決してなり得ないことはすでに述べた通りである。

(新日本医師協会顧問)

絵はがき「第五福竜丸」完成—カラー・八枚一組

新しい第五福竜丸の絵はがきができあがりしました。撮影は三戸森襄治さん。船首からみた第五福竜丸の甲板、展示館全景、同入口、久保山愛吉遺言石碑、それに夢の島に廃棄された福竜丸、の計八枚。カラー印刷。きれいな封筒に入つて一組三百円です。新しく造られた展示館の紹介リーフレット(A6判4頁)が付録につけられています。

修学旅行で中学校見学

四月から五月の展示館は東北・関西の中学校の修学旅行でいっぱい。なかでも和歌山県の中学校は四十校近く、少人数ですが作文集や折鶴を持参し平和の誓いを讀むなど皆印象深い工夫をこらして見学します。潮岬中学校は絵本「わすれないで」を讀みました。

また、滋賀県の安曇川中学校の約二百人は乗組員大石又七さんの話を展示館で聞きました。

和歌山から大工さんも四月二十九日、和歌山県古座から前田茂美さん一家が来館。前田

ある作文集

二年程前の昭和六十一年十二月十五日、分厚い手紙が届きました。東京都八王子市美山小学校四年生一同と書いてありました。東京にいる孫の耐志が通っている小学校ではありませんか。封書の中は、作文集でした。担任の先生よりお爺ちゃん(寺地光治)にお出し下さった手紙や校長先生のお礼状もありました。

「第五福竜丸展示館へ行って帰った次の日、耐志君が『先生これ』と『熊野からの手紙』という一冊の本を手渡してくれました。讀んでみるといまは廃船になったあの船が第七世代丸という名前です。多くの人の手で大切に造られたこと、その後の数奇な運命をたどったことが書いてありました。

耐志君に返すとその時になつて耐ちゃん(寺地光治)が『この本に出てくる人がばくのお爺ちゃんだよ』というので『えっほんとうもう一

寺地通代(古座町津荷)

度見せてくれる」と見ると、そういえば耐ちゃんに似た感じの写真がありました。早速学級の子どもたちにも紹介し、第五福竜丸の歴史を地図で探しながら話してきかせました。古座やエンジンの眠っているあたり七里御浜を指で確かめたりしました。おかげさまでとまするとその時だけの見学が生きた教材となり、子どもたちの心に深くくいつくことなつたと思います。」(先生から)

「たいしくんのおじいさんへおじいさんが第五福竜丸とかかわりがあったと知つたのは九月のおわりごろです。わたしたちは社会科の見学で夢の島などにいきました。もちろん第五福竜丸も見ました。とても大きな船でびっくりしました。あんなうんぬんのいい船が死の灰をあびるなんてもつたないですね。でもそのためになにか水ばくじっけんのひどさを

かしい」などいいながら船尾からくまなく撫でるように船を見つめ、いつまでも保存をと案内した私達の手をにぎりしめました。

また、四月二十八日、事件当時

死の灰の分析などされた元大阪市立大学の西脇安さんが、特集を取材中のNHKの案内で来館。船と三十五年ぶりに対面したと感慨深げでした。

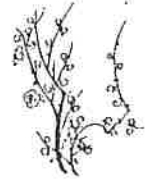
みんなによくつたわることができました。」(守谷友紀恵)

「たいしくんのおじいさんへこないだ第五福竜丸を見て来ました。とても大きくてしっかりといた船でした。上から見てもあまり中までは見えなかったけどとてもよかったです。あの船が水ばくじっけんで死の灰をあびたなんてかんがえられないほどきれいでした。カセットテープ(第五福竜丸を造つた人たちとの座談会)や新聞をおくつてくれてどうもありがとうございます。テープは私の家でかかせてもらいました。」(野村順子)

先生のお手紙や作文集を主人と共に讀ませていただいた涙が出る程うれしかったのです。核の被災を再びくりかえさぬように、平和な世界をよびかけていきたいと行いがこのように遠いところの学校、先生方や生徒の皆さんに感動されたことを大変嬉しく二人して生きがいを感じ喜び合つたことでした。

平和随想 (二)

三宅 泰雄



広島と長崎が原子爆弾で壊滅したのは、一九四五年のことでした。このときの原爆(三個)はニュー・メキシコ州のロス・アラモス研究所でつくられたものです。研究所の所長はロバート・オッペンハイマー博士(一九〇四〜七四年)で、エドワード・テラー博士も有力な指導者の一人でした。テラーはハンガリー生まれ(一九〇八年)の物理学者で、ナチの暴虐に耐え



ハンス・ベーター博士

かねて、アメリカに亡命(一九三五年)、同国に帰化しました。彼は同じくヨーロッパからの亡命科学者、シラード博士ら数名の人たちとともに、アインシュタイン博士を通じて、原爆の製造をルーズヴェルト大統領に進言した有力者の一人でした。その原爆が完成し、日本に大打撃を与えたことから、早くも研究所内では、原爆よりはるかに巨大な力をもつ核融合兵器(水爆)の研究に着手すべし、という意見が出てきました。その有力な提唱者の一人がテラーでした。彼らはすでに一九四六年ごろから「超爆弾」の研究に取りかかっていた。これに対し、所長のオッペンハイマーは、反対はしないまでも、かなり消極的でした。しかし、軍事専門家の予想に反し、早くも、一九四九年にソ連が原爆実験に成功しました。おどろいた米政府は、トルーマン大統領命として、ロス・アラモス研究所を中心として、「超爆弾」の緊急な研究・開発を命じました(一九五〇年)。

これに力を得た積極派のテラーたちは、熱心に「超爆弾」の研究に打ち込んで行きました。しかし、大統領命にもかかわらず、オッペンハイマーの態度は、依然として慎重でした。ようやく水爆ができあがり、一九五二年にエニウエトク環礁で、はじめての爆発実験が成功しました。しかし、この水爆は、重さが一〇〇トン近くもあり、実戦には役にたかないものでした。実戦用の軽い水爆の完成も、またまた、ソ連に一步先んじられました(一九五三年)。あわてふためいたアメリカは、水爆の作り直しに全力をかたむけ、その翌年ふたたび、ビキニ環礁で爆発実験を強行しました。その第一発、ブラボー爆弾が、第五福竜丸被災の大惨事をもたらしたので

ベリテによれば、水爆開発の遅れは、オッペンハイマーのせいではなく、むしろ、テラー自身の行なった計算違いが、主な原因であったということだ。間違いを見付けたのは、ユーラムという若い数学者でした。これを知ったテラーは絶望の極、自暴自棄にさえたと言われています。ベリテは、優秀な計算器のなかった時代なので、止むを得ないことだったと、テラーを弁護しています。ユーラムたちが計算をやり直し、実行に移したのが一九五二年の実験でした。この実験はテラー・ユーラム方式と呼ばれていますが、テラー自身は大した役割を演じてはいなかったようです。しかし世間では、彼のことを今でも「水爆の父」と呼んでいます。一方、オッペンハイマーは、当時の「マッカーシー旋風」の荒れ狂う、右翼全盛期の犠牲者として、公職は剥奪され、その上、ローゼンバーグ夫妻のスパイ問題(一九五三年死刑)もからみ、散々な目にあいました。しかし、のちに嫌疑も晴れ、一九六七年に、フェルミ賞を授与されています。

私たちは怒っているのではなく、ただ不安なのです…

ジョン・アンジャインの声明(一九七七年米議会公聴会)

一九五四年三月一日のブラボーの死の灰は、ロンゲラップ島にも降り注いだ。三月十九日に拡大された危険区域にもロンゲラップ島は除外された。三年後、島民は島にもどされたが、死の灰は残されたままであった。八六人の被ばく者の内、すでに二六人(八八年八月現在)がガンなどで亡くなった…。子供たちの将来のために」とロンゲラップ島の住民が島を捨てて、この五月二十日で五年を迎える。移住先のメジャト島で恒常的な食糧難に苦しみながらも、故郷に帰ろうとしないロンゲラップの人々。昨年夏、元ロンゲラップ村長ジョン・アンジャイン氏から「第五福竜丸に訪れる人たちにわたしたちのことを知らせてほしい」と、被ばく者の名簿、米議会公聴会、核エネルギー委員会での証言などの資料を手渡された。この度、久保文さんの協力によりその一部を掲載したい。移住前のものであること、米議会での証言であることを考慮に入れてもロンゲラップの人たちの現在の心情を垣間見ることが出来る。

議長、並びに当委員会各員の皆様、私はジョン・アンジャインともうします。私は信託統治領マーシャル群島のある地域の市民です。私が今日ここに参りましたのは私の住んでいる地域ロンゲラップとウトリク環礁の人たちのために適

当な補償と医療のための費用の援助を下さるようというのを訴えるためです。皆様の前に立つ機会を与えられた事を嬉しく思います。私は皆様にこの費用の援助をお願いいたします。ただひとつ残念なことは英語が私にとって第二の言語なので、私自身の言葉で直接お

話しできないと言っています。私は今日ここで、一九五四年、核爆弾の放射線を浴びたマーシャルの一人として私の経験を話します。

一九五四年、私はロンゲラップ環礁のロンゲラップ島元首をしていました。その当時、皆さんのお国はビキニとエニウエトクで原子爆弾の実験を行っていました。私たち住民は実験がどういふものなのか、爆弾がどういふものなのか充分には知りませんでした。しかし私たちは日本人が出て行った後に来たアメリカ人を信頼するようになり教えられました。私たちはアメリカ人は私たちに危害を与えるような事はないと信じていました。私たちは彼らは私たちに助けるために来たのだと信じました。

一九五四年の三月、私は妻と当時一才であった息子、レゴジを含む家族と共にロンゲラップにおりました。レゴジはちょうど歩き始めた時でした。私たちはレゴジを中心に大変に幸福でした。彼は幸せな子でした。しかし私は父親として、夫として、一家の主として、また元首として、心を痛めました。それは演習船で私たちの島に来たあるハワイの男が聞いた事が気になりました。「君の命は

これくらいのものだよ」といって彼の親指を人差指の下に半分曲げてこういったのです。私は何故かと聞きました。彼はそれは実験のせいだと言いました。彼は説明はしませんでした。まさに宣告をしただけだったので。

一九五四年の三月一日、ロンゲラップには六四人いました。当時いなかった一人はアイリンググナエに行っていて、コブラの伐採と魚獲の仕事をしていました。朝、太陽は東の空に登りました。すると奇妙なことが起こりました。それはまるで第二の太陽が西の空に登ったようでした。私たちは雷のような音を聞きました。そして水平線に奇妙な雲が見えました。しかし西の空の太陽は消えていました。その時には私たちがそれが爆弾であることは解っていました。音は消えましたが、雲は見えていました。

午後、空から何か私たちの島に降ってきました。それは灰のようでした。それは私の上にも、妻にも、幼い子供にも落ちてきました。私たちは空から降るこの灰を非常に奇妙に思いました。ある者たちはこの灰を舌に載せて味わってみました。またある男はそれを目に擦りつけて、前からの目の傷み



死の灰を浴びたロンゲラップの子ども

コプラを作る土地に当てられまし
た。お金は大した額では無く、人
々は不幸でした。食べ物も与えら
れませんが、幸せではありません
でした。私たちは自分たちの島に
住んでいるのではなく、先祖の土
地を離れていたのです。自分達の
家も持ち物もすべて置いて来てい
たのです。豚も鶏もみな置いてき
たのです。そして何時帰れるのか
わからなかったのです。

三年は大変ゆっくり過ぎて行き
ました。アメリカの医師達は時々
来て私達を診察しました。多く
の人達が具合が良くないとうっ
たえしました。多くの女達が流産を
したと、生まれた赤ん坊は人間
の子のようではなかったことを告

げました。また何人かは死産であ
ったのです。医師達は何故か解ら
ないといいました。彼らは死んだ
赤ん坊を見ていないから、理由は
解らないといっています。

一九五七年、私たちはロンゲラ
ップに帰りました。ウトリクの人
達は私たちよりは三ヶ月遅れて帰
りました。私達は島に帰れて幸
せでした。アメリカ人は大変親
切でした。彼らは私たちに新しい
家、学校と診療所はそれぞれ一つ
ずつ建ててくれました。また新し
い貯水槽も作ってくれました。彼
らはある食物、特にココナツ蟹
を食べるな、と注意しました。コ
コナツ蟹は私たちの好物の一つ
なのです。しかし一年前まで食べ

ることが出来ませんでした。そし
て今でも島の北部の礁湖のココナ
ツ蟹は食べられないのです。そ
他のココナツ蟹は食べられる
のですが、一人一日一ぴきと限ら
れています。ココナツ蟹には今
でも原爆の毒が残っているとい
うことです。私達は故郷には帰
りましたが、今でも恐怖を抱いて暮
らしています。

アメリカ人は親切ではありません
たが、私達は、なお幸福ではあ
りませんでした。ある人達は身体
の具合がよくありませんでした。
私達は食べたいと思うものを食
べることが出来ませんでした。ア
メリカの医師達は毎年私たちの診
察のために島にやってきました。
彼らは毎年来ました。私達は
病気で無いといいい、来年また来
るといつて帰って行きます。しか
し彼らは何か悪いことを発見して
いました。ある男の子がその年齢
相当に育っていないのを診ていま
した。彼らはその子に薬を与えま
した。そして彼が甲状腺の病気で
あることを診断していました。

私の息子レコジも一三才の時、
甲状腺が悪いことを診断されまし
た。彼らはその子をアメリカの病
院に連れて行きました。彼らは彼
の甲状腺を切り取りました。そし

てある薬を渡し、一生毎日それを
飲み続けるようにといいました。
同じことが他の人達にも起こりま
した。医師達は何度も島にきて、
私達を診察するようになりまし
た。数年前、彼らは私をアメリカ
の病院に連れて行って、私の甲状
腺も切り取りました。そして私に
薬をくれて、今後一生、毎日そ
の薬を飲むようにといいました。

核実験の数年後、上院議員アマ
タ・カプア氏はロンゲラップの人
々のために何等かの補償を得よう
と努力しました。彼は一人の弁護
士を頼み、その弁護士が裁判所に
事件として申し出ました。しかし
裁判所は私たちの事件を却下しま
した。裁判所の言い分は私たちが
合衆国の住民では無いから訴訟と
して成り立たないということとし
た。

ドワイト・ヘイン氏は国連に行
って私たちの事を話してくれまし
た。国連から何人かが私達を見る
ためにやってきたので、私たちは
どんな具合であるかを話しまし
た。ついに、一九六四年、合衆国
国会は補償金を出すことを通過さ
せました。そのお金は私たちの災
難に対する償いとして払われたの
です。何人かはそれを使い果たし、
何人かはそれを今でも銀行に貯金



レコジのアルバムをしめす
ジョン・アンジャイン氏(1988年)

飛行機でクウエゼリ
ンまで運ばれました。

その次の日にも、また何そうか
の船が来ました。アメリカ人た
ちがまた島に上がってきました。彼
らは私たちが非常に危険な状態の
中にいる、それは灰のせいだと説
明しました。私たちが島を立ち去
らなければ、死ぬだ
ろうといいました。

着るもの以外はすべ
てを残して立ち去れ
といいました。ある
人達はおそろしがっ
て、上陸用の船に乗
ろうとして、海に落
ちました。何人かは
飛行機でクウエゼリ

に効くか試してみました。人々は
灰の上を歩き、子供たちは灰で遊
んでいました。飛行機が一機私
たちの島の上を通り過ぎました。あ
る者たちは飛行機は蚊の殺虫剤を
散布するために来たのだと思いま
した。アメリカ人たちは戦争のあ
とそれをしに来た事がありました。
私達は灰はその飛行機から落ち
たものだと思いません。しかし
実際何の事か知りませんでした。
私達は理解することが出来ませ
んでした。誰も何が起るのか話
してはくれませんでした。私たち
には何の予備知識もありませんで
した。

しばらくして、夕方になると、
雨が降りました。私たちの家々の
屋根に降りました。雨は灰を洗い
落としました。灰と混ざった水は
私たちの貯水槽に貯りました。男

も、女も、子供もその水を飲みま
した。それはいつもの雨水の味と
は違いましたが、とにかくそれを
飲みました。

翌日、とにかくその次の日だと
思うのですが、何人かのアメリカ
人が船で島に来ました。彼らは機
械を持ってきていました。彼らは
島を歩き回りました。彼らは何か
大変心配そうな様子で、お互いに
早口にしゃべりあっていました。
彼らは私たちに水槽の水を飲んで
はいけないといいました。そして
立ち去りました。しかし何も説明
はしませんでした。



レコジ・アンジャイン(上・下とも)

あとのものは船で島を離れました。
島を離れるとき私達は島をふ
りかえりました。よもやそれから
三年も島を見ることが出来ないな
どとは思いませんでした。また私
たちは一〇〇マイル東のウトリク
島の人達が私たちと同じ経験をし
ているとは思ってもなりませんで
した。

私達は今でも何が起ったの
か理解できませんが、恐れていま
す。

何人かは気分が悪くなっていま
した。何人かは灰のついた皮膚が
痒くなりました。後になって、何
人かは病気がひどくなって、働け
なくなり、弱りきってしまったま
した。後に、彼らは男も女も子供も

髪の色が抜け始めました。多くの
人達の肌には火傷が出来ていま
した。クウエゼリンには医者がい
て、私たちに説明をしてくれました。
私達は非常に恐ろしくなりまし
た。

私達は死ぬのだと思いました。
しかし私達は死にませんでした。
私達は快復して、マジユロ環礁
の島に送られました。私達は長
い間島にはかえれないといわれま
した。ウトリクの島の人達もすぐ
には帰ることが出来ませんでした。
私達は待ちました。私達には
はいくらかの新しい服が与えられ、
家も建ててくれました。また毎月
いくらかのお金も与えられました。
このお金はこれまで作れなかつた



寺地光治氏(夢の島で)

昭和四十六年の十月十二日のことでしたが、東京の広田重道さんから私のいる古座造船所総務課に一通の手紙が届きました。「前略。突然ですが貴社が昭和二十二年に建造された第五福竜丸について問い合わせを致したいと存じます。」

①貴社に第五福竜丸建造当時の設計図などが保管されて居りませんか。②当時の建造に立ち会われた技師または技術屋さんで現在勤務された方は所在の明らかな方が居りませんか。

当方は第五福竜丸保存のために努力していますが、傍ら資料を蒐集して居りますので、貴社が御協力下されば幸いに存じます。」

古座からの手紙

寺地 光治

それまで第五福竜丸の所在も全く私にはわかりませんでしたので驚いたことでした。その後、東京の八王子に居りまされた方の長男が、一枚の東京新聞の切り抜きを送って来ました。被爆の証人第五福竜丸というものでした。

第五福竜丸は長い間東京湾のヘドロの海に廃船同様の姿を晒していたが、この程手弁当で同船のペンキ塗りや大掃除をかってでた父子が現れたという記事でした。それから四、五回広田氏より文書が来て、私の資料集めが始まりました。私は妻と東京夢の島の第五福竜丸を訪ねました。新聞にも書かれていたとおり、船は全くゴミの中で傾いた形で放置されて居りましたが、ペンキを塗られ少しは装いも新たにしていたようでした。私は第五福竜丸に乗り移り、当時を思い浮かべつつ、船首から船尾に至るまで撫でまわし、懐かしみました。

第五福竜丸を建造するにいたるまでの過去のことが走馬灯のよう

に頭の中を駆け巡りました。私は当時古座造船所の資材課長をしていました。

第五福竜丸(はじめは第七事代丸)の船主は三浦三崎の寺本正一という方でした。その船主に合うために二回ほど尋ねていきました。交通の便の悪いところ、栗浜というところから三浦三崎までいくのに長靴で黒い土とぬかるみの大根島を何キロも歩き、歩き疲れてトラックに同乗させてもらったりしたこともありました。

支払うお金が出納閉鎖で思うように使うこともできずに難儀をしたことも覚えています。

第五福竜丸の木の大半は、三重県の七里御浜の松が使われました。私は、いまでも七里御浜を通る時は第五福竜丸の姿が脳裏に浮かんできます。いまでもどこで切ったという覚えています。当時はトラックも思うようになく、牛車をたのみ鶴殿という港まで四キロ位運び、貯木場からイカダを組んで運搬船で古座港の造船所まで引っぱり運んできたのです。

また、数年たった或る日、NHKが古座町で「廃船」という記録映画を上映してくれました。その時も第五福竜丸をみたのです。その映画のシーンが私の心

を揺さぶるほど驚かせました。第五福竜丸のディーゼルエンジンだけは身売りされ、第三千代丸という別の船の機関となったのです。その第三千代丸が三重県熊野市の猪の鼻灯台沖で濃霧のため座礁して、沈没を免れるため七里御浜に乗り上げていたのです。そのシーンを目の前で見るときは切った沖ではありませんか。

その時は、NHKもそれから映画を見ている人々も誰一人知る人はいなかったと思います。全く数奇な運命といえましょう。

私は、第五福竜丸が東京の夢の島のドブの中から平和を望む各層の人々により保存運動が進められていると知り、再度会いたくなくて妻と二人で訪ねてゆきました。見違えるようになった第五福竜丸を見て、先ず安心したものの、たった一つ残念に思うことがありました。その当時の沈んでしまった機械も共に保存されてはしかなかったと心残りが出て来ます。

私の一生の中で大きい大きい感激のひとつでした。

第五福竜丸よ、永遠に平和と核の恐ろしさを叫び続けてください。(和歌山県古座町津荷在住)

ロンゲラップ島の死亡者と甲状腺障害による手術を受けた人々の記録(◎は死亡者(26人)、✓は甲状腺手術者(34人)。当時の村長、ジョン・アンジャイン氏が記録し続けているもの(1988年8月、ジョン氏提供)。

今、実験から二二年経ちました。そして私はここに皆さんに援助のお願いに来ました。お金が私の甲状腺を治した。

それは、実験から二二年経ちました。そして私はここに皆さんに援助のお願いに来ました。お金が私の甲状腺を治した。

していません。私たちがお金を貰った後、彼らは私たちの甲状腺の病氣を見つけたのです。一九七二年、彼らはレコジを再び連れて行きました。彼らは彼の

診察をしたのだといいました。アメリカに連れて行って、ワシントンの近くの大きな病院に入れました。暫くして、私もその病院に連れて行かれましたが、それは彼が非常に重体だということに気がつきました。彼は二度と彼の島を見ることがなく、箱に入っていました。彼は二度と彼の島を見ることがなく、箱に入っていました。彼は二度と彼の島を見ることがなく、箱に入っていました。

してくれるとは思いません。お金が私の息子を返す事は出来ません。お金が私たちに三年分の人生を返すことは出来ません。お金がココナツ蟹の毒を除く事は出来ません。お金が私たちの恐怖を治めることは出来ません。

しかしお金は私たちに援助することは出来ます。お金はアメリカ人が心配をしていること、私たちが助けたいと思っていることを私たちに伝えるでしょう。お金は私たちの島を、島の人達を、子供達を助けることが出来ます。私たちがいろいろなものを造ることが出来ます。子供達を学校にやる事が出来ます。私たちが皆さんの援助をお願いします。

医師達は今年でも毎年やってきます。時には年に二度来ます。しかし人々は幸せではありません。彼らは今でも恐れています。医師達は私たちが病気で無いといいますが、時に彼らは何人かを連れて行って、甲状腺を切り取ります。そして帰ってきます。

島の人達は自分達が病気で無いのなら、何故「あなた達は島に来るのか」と尋ねることがあります。すると彼らはただ調べたいからだと答えます。

今年には核実験から二二年目です。医師達は今年でも甲状腺の異常を見つけています。今ではウトリクでも不安です。灰が私達の上に降ったのは災難だといわれます。また私たちが診査のために利用されているのでは無いと彼らはいいます。

私たちはアメリカ人は好きです。彼らは私たちに對して親切でした。私達は怒っているのではなく、ただ不安なのです。私達は病気になる、爆弾のことを考えます。人々が死ぬと、爆弾のことを考えます。神よ、アメリカを許し給え、私たちの上に彼がやったことを。私は健康を失いました。私は人生の三年を失い、私の息子を失いました。

どうか私達を助けて下さい。ありがとうございます。(久保 文訳)

今年には核実験から二二年目です。医師達は今年でも甲状腺の異常を見つけています。今ではウトリクでも不安です。灰が私達の上に降ったのは災難だといわれます。また私たちが診査のために利用されているのでは無いと彼らはいいます。